

名 称	鹿沼市小中学校再編計画策定に向けた意見交換会(南摩地区)について
日 時	令和6年5月2日(木)19時00分~21時21分
場 所	南摩コミュニティセンター
出席者	参加者:27名
内容及び 結果等	<p>【質問】 アンケートの対象者は誰か。</p> <p>【回答】 未就学児及び小中学生の保護者並びに学校運営協議会の方を対象に実施した。</p>
	<p>【意見】 自身は子育て世代ではないが、説明のあったアンケート結果や自由記述について、再編を推進すべき意見ばかりを強調している印象を受ける。 再編は必要かもしれないが、いきなり新聞で再編案が発表され驚愕した。 学校は地域の拠点という考え方があるが、市としてまちづくりをどのように考えているのか。南摩地区から学校が無くなってしまうと、若い世代が流出することに繋がり、益々人口減少が進んでしまう。要望としては、小中一貫校として残していただきたい。</p> <p>【質問①】 以前は人数が少なくても学校は残すとの方針があったと聞いていたが、方針が変更されたのか。</p> <p>【質問②】 南摩地区は適正規模とされている粟野地区の学校に近いと考えるが、何故西小や西中との統合案が示されたのか、理由を示してほしい。</p> <p>【質問③】 骨子 p.2 に人口推移において、小学校在学者数と中学校在学者数を比較すると中学生が半減しているが、何故か。</p> <p>【質問④】 学校が無くなることで、地域の事業ができなくなることを心配しているが、事務局としてどのように考えているか。</p> <p>【回答①】 方針について、鹿沼市における学校規模に関する基準は、鹿沼市教育ビジョンが策定された当時から変わっていない。策定時は、学校を残すような基準で定められたものであったが、現状としてその基準を下回る状況になってきたため、再編を検討している。 なお、国の基準としては、学級数が12~18学級の規模を適正規模としているが、鹿沼市の実態にそぐわない為、市独自の基準を設けている。</p> <p>【回答②】 再編案について、近隣で規模の大きい学校かつ早期の統合が見込める学校の規模を検討し、案として示したものである。</p>

今後の検討の中で、栗野地区との統合が望ましいということであれば、そういったことも視野に検討を進めていきたいが、統合案は事務局として、今後の児童生徒数の推移などを考慮したうえで、条件が一番いい形を提案したものである。

【回答③】

児童生徒数については、小学校が1～6年生、中学校は1～3年生が在学しているため、半減したように見える。

【回答④】

南摩地区は、地域と学校の結びつきが強い地域であることは認識している。地域のまちづくりについては、市全体として取り組むべきものと認識しているが、まずは「学校再編」についてお考えいただく場とさせていただきたい。

【発言者返答】

新聞で公表されてしまったのは、案やたたき台という風には受け止められない。意図的に流したのではないか。

【回答】

あくまでも、たたき台に対する意見をいただく為に出させていただいたものであり、これで決まりというものでもない。事務局としても、庁内で相談したうえで記者会見をしたものであり、たたき台であることをご了承いただきたい。

【意見】

先の発言にもあったが、やはり学校は地域コミュニティの核である。今回の再編案は旧村単位を飛び越えるものであり、市としても初めてのことと思う。住民の理解が十分に必要であり、よろしく願いたい。

南摩地区は、この前病院が無くなり、残った公共的施設は郵便局とコンビニくらいになってしまった。学校も病院もない地域に新たに家を建てる人は少ないと思う。土地の経済的な価値が加速度的に低下していくことになる。また、学校が無くなることで地域住民の連帯意識が欠如してしまうことを一番重要な問題と捉えている。

文科省の手引きでは、学校の適正規模は12～18学級とされており、クラス替えが可能なことや生徒同士が切磋琢磨しあえること、クラブ活動の多様性確保などのメリットがあることが示されている。

一方で、「学校を当該地域のコミュニティ存続等の中核的な施設と位置付け、地域を挙げてその充実を希望する場合は、その存続を可とする。」旨の記載もあり、南摩小と上南摩小を統合することで、地域に一校残す選択肢もあるのではないか。

西小・加園小・上南摩小・南摩小との統合案が示されているが、骨子p.2の児童生徒数見込みを見ると、4校が統合したとしても10年後には複数の学級を構成できないのではないか。また、西小との地域的な繋がりも希薄であり、地理的にもかなり遠い印象を受ける。

栗野地区との統合に関する発言があったが、南摩地区は栗野地区に近く、10年後は複数学級が構成できない恐れがあるものの、栗野小は最新の学校であり、メリットと考

られるのではないか。

中央小との統合という案も考えられる。近所でも、中心部の学校に通わせるために転居していった方がおり、地域に残りながら中心部の学校に通える選択肢もあると思う。

様々な可能性が考えられるので、固定的な考えではなく複数の選択肢を提示したうえで、議論を進めていくべきである。

これから入ってくる子ども達と保護者が何よりも重要であり、検討会やアンケートなどを実施し、丁寧に議論を進めていただきたい。10月の計画策定は早急すぎると思う。

【質問①】

上南摩小と南摩小を西小と統合する案とした理由を示せ。南摩小と上南摩小のみの統合ではないのか。

【質問②】

スクールバスについて、どこから出す想定か。

【質問③】

現状はたたき台とのことだが、いつ頃決定になるか。また、入学してすぐに統合となってしまっては振り回されてしまう恐れがあるが、具体的な統合時期はいつごろか。

【回答①】

近隣校の統合により小規模校を解消するという考えのもと、児童生徒数が多く見込める西小や西中との統合案を提示した。

西小の校舎は老朽化が進んでおり、今回の統合に併せて建物の改修を行い、新たな学校を作っていく考えて検討している。

また、南摩小と上南摩小のみの統合については、現状の見込みで令和8年度に複式学級が発生し小規模校となることから、西小との統合案を提案したものである。

【回答②】

スクールバスについては、小学校は4km以上、中学校は6km以上の通学距離に応じた運行基準が定められており、それ以上の場合は必ずスクールバスを運行する。

統合により通学距離が遠くなるものについては、基準を踏まえつつ、実際の子どもの状況を調査したうえで、話し合いの中で決めていくことになる。

【回答③】

計画案については、地域や保護者からご理解がいただけていない場合、きちんと説明したうえで、地域検討委員会の設置などにより方針を決定していくことになる。

なお、計画自体は10月にまとまるように進めていき、反対意見が多い地域については、地域検討委員会で個別に検討させていただく想定である。

統合時期等については、統合準備委員会のなかで具体的な時期や新入生の対応などを決定していくことになるが、南摩地区については、地域から理解を得られている状況とは捉えておらず、現状で具体的な統合時期を示すことは困難と認識している。

【質問④】

地域検討委員会の構成メンバーは誰か。何かしらの役職をやっている人だけか。

【回答④】

地域関係者と保護者による構成を想定しており、ある程度全体的なことを考えられる代表の方を想定している。

【質問①】

アンケート調査に「反対」と回答した方の主な理由を示せ。

【回答①】

南摩地区だけの集計は取っていないので、市内全体で反対した方の主な理由と回答件数を紹介する。反対する主な理由として2つ選択していただいたもので、「学習環境の変化(きめ細やかな指導ができなくなる等):139件」、「通学時間や通学方法の変化:222件」、「児童生徒への負担:119件」、「伝統地域性(学校や母校が無くなるや地域で子どもを育てたいなど):64件」、「地域の過疎化:51件」、「地域拠点の消失(PTA活動や自治会活動などの拠点が無くなる):15件」、「必要性を感じない:106件」という結果であった。

【質問②】

義務教育学校と小中一貫校の違いは何か。

【回答②】

小中一貫教育の制度化の背景としては、小学校から中学校に進学した際の大きな変化により、学力不振や不登校となる「中1ギャップ」の解消や、身体的発達の早期化、学習内容の量的質的充実、家庭や地域の社会性育成機能の低下及びそれに伴う学校の役割の増大などがあげられる。

両校の違いについて、義務教育学校の場合、1つの学校で小・中学校を1つの組織が運営していくもので、1人の校長と1つの教職員組織が1~9年生の教育を行っていくものである。6・3年の枠組みを4・3・2へ変更できる点や、外国語や地域に伝統文化などを学ぶ新教科の創設、指導内容の特例などが可能である。

一方、小中一貫校については、既存の小学校と中学校をそれぞれ別の組織(校長先生も教職員組織もそれぞれ設置)で運営し、先ほど申し上げた内容を小・中学校が連携しながら実施していくものである。

南押原地区では、小中学校が隣接している点や地元の教育を考える会で小中一貫教育の研究が行われていたことなどから、小中一貫校を提案したものである。

北犬飼地区では、北犬飼中学校の建て替えが必要な時期であり、児童数が減少している周辺の小学校との義務教育学校の設置を提案したものである。

【意見】

昨年、コロナ禍により4年ぶりに夏まつりを開催し、参加できなかった61名の卒業生が参加して会場を大いに盛り上げてくれた。会場には南摩中を借りており、学校が無くなってしまっはお祭りが継続できなくなる。地域コミュニティに学校は必須である。

再編にあたっては、小中一貫校などの説明もなく、南摩地区から学校が無くなるのが既定路線のような印象を受ける。こういった流れの中で、10月までにまとめるのは無謀であり、選択肢を複数示したうえで住民が選べるような仕組みを整えてほしい。

【回答】

南摩地区では地域検討委員会を検討しているが、同意形成が図れる地域であっても地域のお祭りなどを継承できる仕組みを、統合準備委員会で検討する必要があると考えている。

再編案については、児童生徒数が平成初期から現在までにおおよそ半減している状況や今後もさらなる減少が見込まれる状況があり、早い段階で再編を進めるため、まずは案を示したうえで、地区ごとのご意見を伺いながら再編方針をまとめていく考え方を取らせていただいた。

【発言者返答】

案を1つしか示されていないことが不満。いくつかの選択がなければ、南押原地区では小中一貫教育の研究が進んでいたとのことだが、これから南摩でも同様の研究をしてもいいのでは。小中一貫の可能性はまったくない認識か。

【回答】

あくまでも学校再編は地域や保護者の理解の上に進めるものであり、合意が得られなければ、地域検討委員会を立ち上げ再編案を練り上げていく形となる。南摩地区については、その中できちんと検討していく必要があると受け止めている。

【意見】

アンケートについて、母数はいくつか。また、回答した者の中での賛成反対の割合なのか、未回答者も含めた割合なのか、どちらか。

【回答】

アンケートは、南摩小で23、上南摩小で8、南摩中で31の回答があった。保護者全員に配布し、未回答者もいた。

なお、学校ごとの集計に未回答者の数は含めておらず、回答者の中で賛成反対に回答した割合を示している。

【発言者返答】

アンケート結果のグラフには、未回答者の数も入れるべきなのではないか。

また、説明資料に学校再編の目的は児童生徒を第一に考え、教育環境の充実により教育の質の向上を実現するとあるが、これらは生徒数の多い少ないに関係なく確保できるのではないか。結局は少子化で再編をやらなきゃいけないという感じなのだと思うので、もう少し素直に書いた方がよいのでは。

【回答】

事務局として説明不足の点もあったかと思う。ご意見として頂戴する。

学校再編の目的については、児童生徒数の減少だけではなく、少ないからこそ市として

目指すべき教育ができない状態があることから、再編の必要性を考えており、単なる数合わせではなく書いてある通りの理由があるためである。

【意見】

先の意見でもあったが、やはり学校が無くなってしまえば、新しく地域に入ってくる人はいなくなってしまうので、学校の跡地利用が重要になってくると考える。

すでに廃校になった学校もいくつかあるが、現実として利用されていないのがほとんどであるため、統廃合が決まってから動くのではなく、早々に担当部局との打合せを進めていただきたい。

【回答】

跡地利用について、現時点での市の考えとしては、計画策定後に合意形成を図ったのち、統合準備委員会を立ち上げる。学校規模や範囲などにより、準備期間に2~3年を要すが、その期間の間で公共施設活用の担当部局を交えた利活用の検討を進めていく想定である。学校が存続している間に活用について何も進めないということではない。

【意見】

再編計画は10年を実施期間としているが、10年間同じ職員が担当としていられるわけではないと思う。地域との協議などの捉え方は、人それぞれ異なるため、再編の方向性が途中で変わってしまうことを危惧している。そのようなことが無いように、担当者が変わった際の引継ぎをきちんとしていただきたい。

【意見】

保護者向け意見交換会でも同様の発言をしたが、アンケート調査について、再編の必要性について問われた際、上南摩小と南摩小の統合は否めないと考え、そのように回答した。同様の考えから「必要」と回答した保護者も多かったのではないかと。

南摩地区は学校と地域の結びつきが強い。学校目標でも地域とのつながりを重視しており、小規模校ながらも、南摩地区の良さを感じながら勉学等に励んでいる。南摩小ではインクルーシブ教育のモデル校として、多様性を学ぶ活動をしている。

地域と共にある学校が子ども達のためにもなると考え、地域も含めた南摩の良さを再編案の中で考慮していただきたい。学校単体で残すのが難しいのであれば、南摩中を含めた小中一貫校等の導入という形で学校を残してほしいと個人的に思う。

【意見】

先の意見同様、人数が少ないから統合というのは違うと思うが、統合に賛成した人の中にはPTA活動が要因の方もいると思う。小規模の学校では、ほとんど全世帯がPTAの役員をやる現状があり、負担になっている。規模の異なるすべての学校で同じ組織を持つ必要があることは違うのではないかと。教育委員会として把握しているのか。

再編にあたっては、保護者を含めた学校を取り巻く方々の意見をきちんと拾ってほしい。今日の出席者に保護者が少なく、意見が聞けないことを非常に残念に思う。

【意見】

この再編案は、無謀な計画である。「北押原中の生徒に南摩中に行ってください。」と

	<p>言っているのと同義である。</p> <p>また、教育基本法で示された「国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うこと。」という文言について、小規模校は当てはまらないのか。小規模校の方がこれを養うことができると思う。</p> <p>【回答】</p> <p>教育基本法については、小規模・大規模だからということではないと考える。</p> <hr/> <p>【意見】</p> <p>先に発言のあった、PTA の組織が学校の規模によらず同じ組織を持つことについて説明を求める。</p> <p>【回答】</p> <p>PTA は学校の組織ではなく、学校の先生と保護者が組織する任意の団体であると理解している。したがって、教育委員会は説明する立場にないが、学校規模により保護者の負担が変わることは存じている。</p> <p>【発言者返答】</p> <p>任意の団体なのであれば、組織を変更してもよく、変更後にとやかく言われることはないという認識で間違いないか。</p> <p>【回答】</p> <p>教育委員会としては、PTA の組織は学校と保護者で決めるものと理解している。</p> <hr/> <p>【意見】</p> <p>市の教育ビジョンや国の方針は理解したが、以前の角田教育長の「沢には沢の文化があり、中学校を1校は残す。」という言葉が頭にある。学校再編進めれば、地域コミュニティはまず崩れる。学校再編も大切だが、地域コミュニティももっと大切であり、防災や防犯にも関わってくる問題である。</p> <p>もう少し地域のことを研究し、理解したうえで再編を考えていただきたい。</p> <hr/> <p>～事務局から事務連絡～</p> <p>1 いただいた意見は、全地区終了後、個人情報に配慮した形で HP 上に掲載させていただく。</p> <p>2 今後のスケジュールとしては、6月までに全 15 地区の地域住民向け意見交換会を実施し、7月からはいただいた意見を踏まえた検討、9月にパブリックコメントの実施、10月に計画策定を目指している。</p> <p>3 計画策定後は、改めて地域に訪問して説明を予定している。</p> <hr/> <p><閉会>21:21</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・学校再編の目的 ・小中一貫教育について ・鹿沼市小中学校再編計画骨子及び鹿沼市の小中学校の配置図 ・アンケート用紙

